



2020年秋号／通巻134号／2020年9月発行

最後の晩餐

マリア会 山崎 貢

それまで田舎で育った無名の少女だったのにいきなり天使からわけのわからないことを言われ、やがて救い主の母として一躍歴史の中に名前が残るようになった聖マリアや、幻の声を聞いてそれまでの生き方を180度変えて最後には殉教して最期を迎えるという劇的な生涯を送った聖パウロほどではないにしても、人生には転機がある。

そういった転機は、おそらくは人との出会いがきっかけとなるものがほとんどだろう。弟子たちの召命の場面、あの時イエスと出会わなかったら、イエスから声をかけられなかったら、彼らは生きていたという痕跡も残さないままこの世を去っただろう。イエスと出会うことで彼らは生きていたあかしをこの世に残した。イエス自身も洗礼者聖ヨハネと出会わなかったらあれほどまでに苛烈な生き方を選ばなかったかもしれないし、フェニキアの女と出会わなかったら異邦人への宣教に目を向けることもなかったかもしれない。

たまにマリア会の最初の宣教師のことに思いを馳せる。遠い異国の地を目指してキリスト教を伝えようとする熱意、そこで死んでも構わないという覚悟、なかなかそういった心境には到達できない。外国人墓地の訪れる人もいないようなひっそりとした墓を

見るたびに、どうせなら死ぬときには祖国で埋葬されてたまにはお参りされたいなという俗っぽい思いを拭いきれない。東京の府中と長崎の城山にあるマリア会の墓地、その墓碑銘の最初の方に彫られている外国籍の会員の名前を見ると単純に凄いと思う。

修道院での食事の席、亡くなった会員の話になることがよくある。何度も話題にのぼる会員、たまにしか登場しない会員、事情があって会を去った人。たぶんどこの修道院でも見られるもの。血の繋がりのない他人が、一緒に生活していたというだけで死後何十年経っても話題にのぼるということは、考えてみるとなかなか面白い。面識はなくても、聞いていてその人柄が伝わってくる。必ずしもいい話ばかりではないし辛辣な評価をされる会員もいる。それでも忘れ去られるよりはいい。

やがて墓碑銘も思い出話もこの世から消し去られる時が来る。生きていたという痕跡は永遠ではない。それでもこの世に確かに生きていたと後世まで伝わりたい。俗っぽい考えだろうか。しかし私たち一人一人の人生は死んでしまえば忘れられてもいいような無意味なものではない。なによりイエス自身、食事のたびに自分のことを思い出してほしいと懇願しているのだから。

SM ニュース

1. 日本地区院長会議

日時：2020年6月22日～23日

場所：シャミナード修道院

出席者▶本部員：市瀬幸一 地区長 清水一男 霊生部長
山本一行 財務部長 松本幸徳 教育部長(欠席)
藤原忠房 評議員
修道院長：中木熊男 光星修道院長 青木 勲 暁星修道院長
烏山助雄 明星修道院長 末吉克久 海星修道院長
清水一男 シャミナード修道院長

内容要旨：地区長の(霊的生活、共同体の生活に関する)講話
各修道院の今年度の時間割、緊急連絡網等の分かち合い
修練者の修道院訪問の報告と誓願までの予定
「マリアニスト家族に関するアンケート」
高齢者、介護の課題総長と地区長とのズーム会議の要約等

2. 修練者の識別の黙想会

日時：2020年7月5日～14日

場所：石神井イエズス会黙想の家

指導司祭：グエン・ヒュー・ヒエン神父
(ベトナム人司牧担当)

参加者：修練者・レ・ゴック・ドアン、
レ・ヴァン・シン、ハム・ヴァン・カウ

3. 今年の大黙想

日時：2020年8月9日午後～8月15日昼食まで

場所：シャミナード修道院

参加者：シャミナード修道院と暁星修道院の会員のみ
(三密と都道府県をまたぐ旅行を避ける)

指導司祭：本間研二神父 イエズス・マリアの聖心会管区長



▲石神井での識別の黙想会

途上国支援に思うこと

MLC 長濱 至

発展途上国の支援についてよく語られる言葉があります。それは「魚を与えるのではなく、魚の捕り方を教えなさい」というものです。2012年に訪ねたチャクラガティ村は12年前と比べてかなり発展していました。みすぼらしい家が減り、商店が増えて活気がありました。学校の数もかなり増え、子供たちは制服を着て立派な校舎に通っていました。



▲藁の袋詰め作業

でも、ダリット（不可触民）と呼ばれる人々の暮らしは相変わらずでした。ネパールには農業関係者が200万人いますが、その75%がダリットで、彼らは長い歴史を通して様々な差別を受けてきました。

今も村の中心から離れたところに集落を作って住み、土地を持たず、子供たちはほとんど学校に通えません（彼らの識字率は男34%、女12%）。以前と違うところは、行政や支援団体が作ってくれた共同の井戸とトイレだけのように見えました。

ダリットに限らずこうした貧しい人達のた

めに、私に何ができるだろうかと村の青年たちと思索した結果、きのこ栽培を選び、これを事業化して人々の雇用を創出しようと計画しました。結果なんとか事業化のめどが立ち、また1年ほど前からトマトやきのこの栽培に国から助成金が出ることになって、この経営がより楽になったこともあり、この事業を現地の人に移譲して帰国しました。・・・私の事業はほんの細やかなものでしたが、いかにして生きるか、その一例を人々に理解してもらえたかなと思っています。

MLCの秋以降の予定

9月19日(土)

バチカン公会議教会憲章を読む会 第二回

場所：シャミナード修道院会議室

時間：10:30～16:00

指導：清水神父様

この講座はマリアニスト以外の方もいらっしゃれます。

👉 申込は mlckh1243@gmail.com まで
件名に教会憲章第二回と記入。

また「Cafemlc」の中の「動画」をクリックすると清水神父様の教会憲章第8章を読むシリーズ1～5までが視聴できます。

9月26日(土) モデレーター講座 第二回

場所：シャミナード修道院

時間：14:00～16:00

『イエスの徳に学ぶ』を読むの日時は
変更します。(未定です)

10月11日(日) 世界マリアニスト祈りの日
可能であればミサと懇親会

10月17日(土) バチカン公会議教会憲章
を読む会 第三回

11月8日(日) 慰霊ミサと懇親会

以上 新型コロナウイルスの感染状況で予定は変更の可能性があります。近くなりましたらcafemlcのサイトか身近な評議員のメンバーにご確認ください。今年度から新しい体制で始まりましました。よろしく願い致します。

会長：平田 潔(ソダリティ)

霊性部長：平田 潔

教育部長：白濱 清昭

財務部長：古畑 久美子

コロナの影響で色々制約が出てくる状況ですが心を一つに進めていきたいと思っています。

自分の心を満たしてくれる唯一の存在

アリアンス・マリアル 田中正江

アリアンス・マリアルはボルドーの大司教の認可の在俗会として再スタートする為に、数年前から会のアイデンティティーや会則、活動方針について、会員間で討議を行い、総会決議のもと、バチカンの担当聖省に認可の申請を行いました。その結果、昨年8月15日、聖母の被昇天の祭日に正式に認可が下り、ボルドーの大司教の在俗会として再スタートすることになり、全終生誓願者は、再び認可された新たな会則のもと、終生誓願を宣立することになりました。アリアンス日本人会員として、私も今年の2月23日、シャミナー



ド修道院にて、SM、FMIの執行部、MLCの会長他数人の立ち合いのもと、終生誓願を宣立しました。けれども、アリアンスの会員として、マリアニストとして、在俗会会員として、新たな決意で歩み始めた、その同じ週の灰の水

曜日、聖イグナチオ教会のタミサの最後に、主任司祭から菊地大司教指示のもと、公開ミサ及び教会活動を全て停止すると告知されました。

その日から全く、ミサの参加も告解も出来ず、まもなく教会の敷地内に入れない日が続きました。マリアニスト家族の絆によって、SM、FMIの修道院のミサに参加することは可能でしたが、私はあえてそうしませんでした。在俗会員にとって、一般の信徒の状況の全てを受け入れることは、宣立した三誓願を守ることと同じに重要だからです。インターネットでミサに参加し、祈りながらも、自宅と職場の往復の日々が続く中で、知らず知らずのうちに、映画、音楽、読書等、様々な方法で必死に心の中の空洞を満たそうとしている自分がいました。

5月の末、教会の聖堂が開放され、久しぶりに聖イグナチオ教会の聖堂で御聖体訪問をし、祈りを捧げることが出来た時、そのような全ての心の動きが消えて、平安と喜びに満たされました。私が本当に、望んでいたもの、心を満たしてくれるものはたった一つでした。

FMI ニュース

★インターネットでの講座

マリアニスト宣教センターでは、5月より、インターネット上で「私たちの母マリア」をテーマに講座を開いています。毎月、導入の短い話一祈り一黙想一分かち合い。テーマは毎月第1日曜日に配信され、参加者は自分の都合に合わせて、祈り、黙想します。その後、主からの呼びかけや自分で感じたことなどを自由に分かち合っています。コロナウィルス感染拡大のため、対面講座や分かち合いは困難ですが、この講座を通して、はからずも、遠方の方々も参加でき、お互いに祈り合い、分かち合いをしています。

8月と9月の2か月間は、マリアニストの源泉をたどるバーチャル巡礼に出かけます。参加ご希望の方は以下のアドレスからお申し込みください。

marianist@marianist.jp

★メール・アデルの日めくりカレンダー

2020年7月からマリアニストのホームページ上に「メール・アデルの日めくりカレンダー」が掲載されています。

毎日、アデルは短い言葉を通して私たちの心を神様に向けさせてくれます。

ホームページアドレス

<https://www.marianist.jp/>





三部門

汚れなきマリア修道会 Sr. 小林 幾久子

1815年、ボルドーのコングレガニスト（以下、聖母会会員）の祈りと教えを記した「マリアの僕の手引き」第3版が出版され、その手引きの第2の主題に、「ボルドーの聖母会の目的と他のマリアに奉獻された敬虔な会との相違点」について書かれています。結論として、ボルドーの聖母会は、そのメンバーに提供する3つの利点：祈り、働き、教育によって特徴づけられると断言しています。この3要素が三部門の源点となっています。その序文の中で、この3つの活動を紹介しています。

シャミナード師は、神に対して（祈り）、他者に対して（働き）、自分に対して（教育）の3つの関係の中で人間全体をとらえ、教育しようと考えていました。そして聖母会会員の質と活力を支えていたものは、「イエス・キリストの母への奉獻」でした。

「マリアの娘の会」における三部門

シャミナード師とアデルによって創立された「マリアの娘の会」の最初のメンバーは、聖母会会員であったことは明白です。初めころ「修道者会員」について語っています。従って、聖母会の持っていた活力が、修道会を活かしていたことは当然のことです。

最初の会憲の160条に、修道会は聖母会の三部門を受け継ぎ、次のように記されています。「聖母会同様、修道会は、次の3つの目的を持っています：祈り、働き、教育」。

当然ながら、「マリアの娘の会」の翌年に創立された「マリア会」にも三部門は受け継がれていきます。1818年には、修道会（男女マリア会）の特徴として、三部門が紹介されています。



三部門の変遷

会の発展、会員の増加と事業の拡充に伴って、組織は変遷と適応を繰り返しますが、創立者の時代においても三部門に同様なことが起こりました。元来、三部門は、マリアが私たちがキリストの似姿に形作られる手段と見なされており、従って、三部門は、キリストの似姿になるという会の目的に方向づけられていました。

活性化から組織へ

ところが、1839年の会憲によって大きな転機を迎えます。本来、会の目的遂行の手段であった三部門は、総長の3人の補佐として体系的に提示されるに留まり、組織、統治を示す表現へと移行していきました。それはマリア会内に起こった創立者の心を苦しめた諸問題の結果でした。

三部門の刷新

三部門を本来の姿に戻すためには、以下の要求を満たす必要があると思われます。

1. 全てのレベルの補佐が、それぞれの分野で、「三部門の活動の一致」を図りながら、個人的な責任を果たすために、全力を傾注すること。
2. 三部門は、統治より活性化の手段であり、私たち全員にとって、宗教的活力の原動力として行使され、生きられること。

◎ MLC からのお知らせ

MLCとしてのホームページがあります。
スマホのスタイルで手軽に見ることができます。
URL: <https://www.cafemlc.org>
ホーム (MLCの年間目標、チャレンジ目標、養成プログラム…)、
お知らせ、マリアニストの祈り、ブログ、動画
などがご覧になれます。
MLCを紹介するときなどに、ご活用ください。



■発行：日本マリアニスト家族評議会
問い合わせメール：marianist@marianist.jp
ホームページ：<http://www.marianist.jp/>